

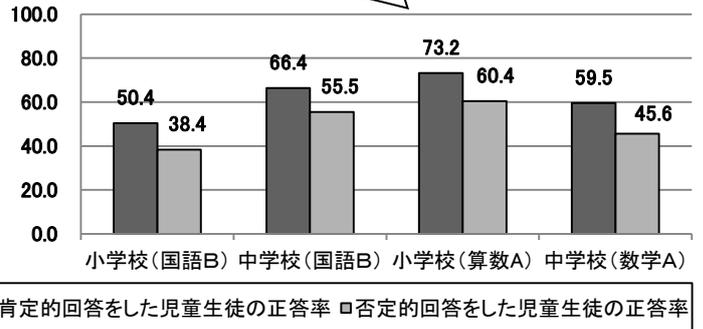
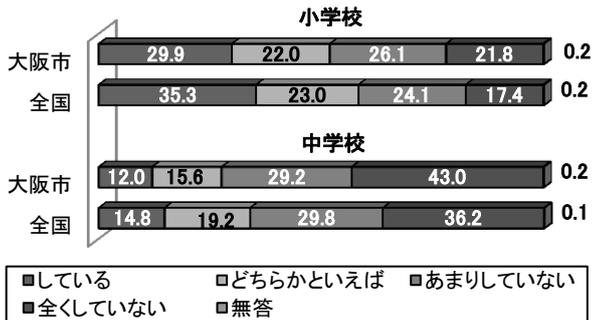
—全国との比較・正答率との相関関係—

次の項目について、児童生徒ともに、全国と比較してできていない傾向にあります。

次の項目に肯定的に回答している児童生徒の方が、全ての教科で平均正答率が高い傾向にあります。

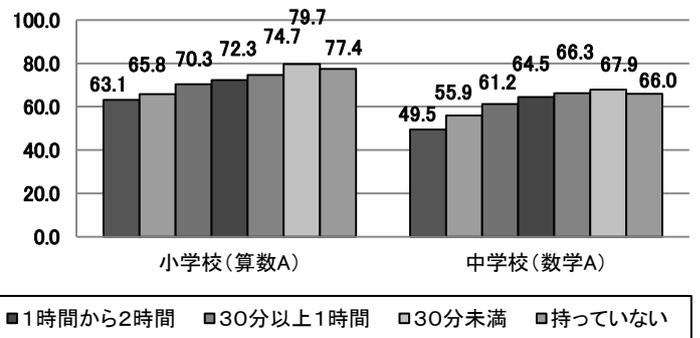
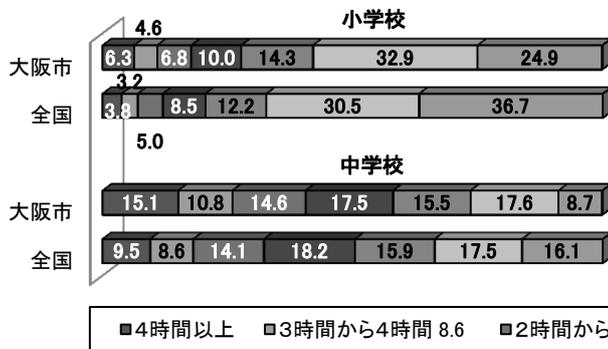
児 生 **テレビを見る時間やゲームをする時間のルールを家の人と決めていきますか〈新規項目〉**

児 生 **朝食を毎日食べていますか**

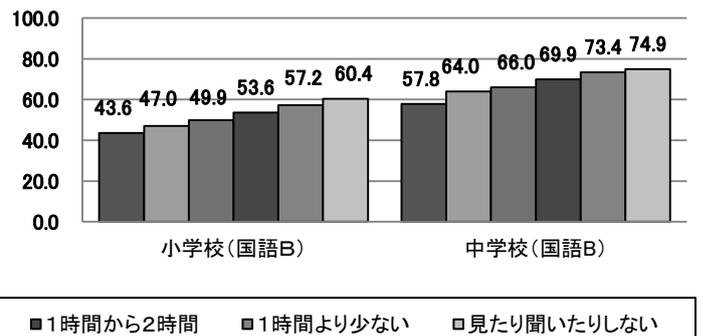
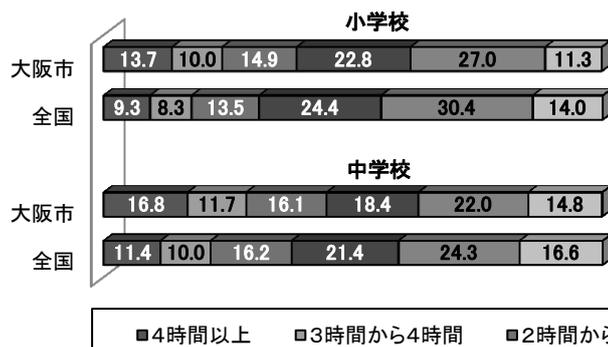


「携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間」「テレビゲームをする時間」が少ないほど平均正答率が高い傾向にあります。また、この2つの項目にかかる時間は小中学校ともに、全国と比較して長い状況です。

児 生 **普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか**

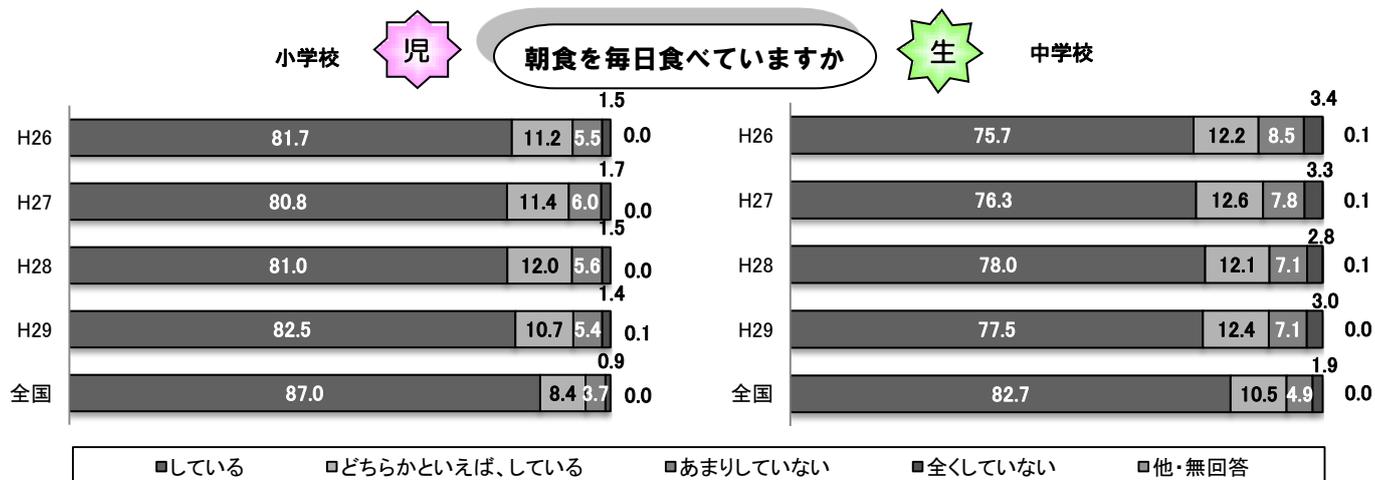


児 生 **普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか**



一 経年の比較

「朝食を毎日食べていますか」について、肯定的に回答している児童生徒の割合は、26年度から大きな変化はありません。全国と比較すると低い状況です。



学校で

- 朝食や栄養バランスに配慮した食事の大切さについて指導し、食育の推進を図ります。
- 学校全体で、基本的な生活習慣を身につける取組を進めます。
(あいさつ、時間を守る、学習規律など)
- 学校・家庭で身につけるべき基本的な生活習慣を共有します。(懇談会や学校便りなど)

家庭で

- 毎日の生活を子どもとともに振り返りましょう。
- 携帯電話での通話やメール、インターネットの使用やゲームをする時間などを、家庭で相談し、ルールをつくりましょう。
- 朝、昼、夕の食事や早寝早起きの習慣づけから、生活のリズムを整えて、一日中元気に生活できるようにしましょう。



効果があった取組例

- 全学年で食に関する指導を計画的に進めることで、食事についての意識の向上を図っています。
- 懇談会や家庭訪問で、保護者と一緒に学校や家庭での生活を振り返り、規則正しい生活の大切さについて話し合っています。
- 保護者の協力を得ながら、ノーゲーム・ノーテレビデーを月1回設定しています。
- 家庭と連携しながら、「持ち物」や「登校時間」などを確認することで、忘れ物や遅刻が減ってきています。
- 5年生で、携帯電話の使い方やマナーについて学習する「携帯教室」を実施し、指導に活かしています。

大阪市の取組

「学校キャラバン隊の派遣」(P. 46)

一家庭学習を計画的にしましょう

児

児童質問紙

生

生徒質問紙

学

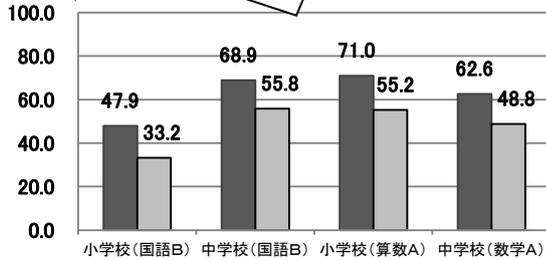
学校質問紙

一正答率との相関関係一

次の項目に肯定的に回答している児童生徒の方が、全ての教科で正答率が高い傾向にあります。

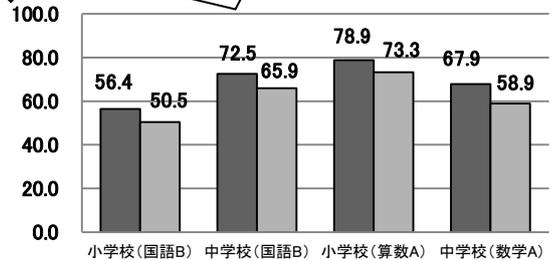
児 生

家で、学校の宿題をしていますか



児 生

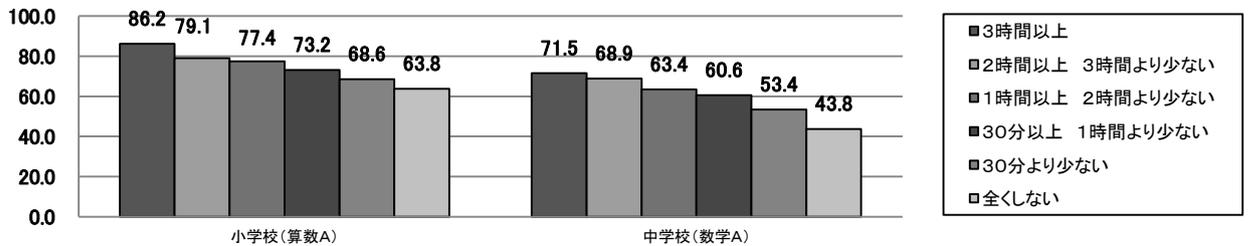
学校の授業の復習をしていますか



児

生

普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



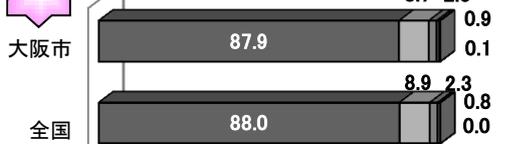
一全国との比較一

「家で、学校の宿題をしていますか」「学校の授業の復習をしていますか」について、肯定的に答えている児童生徒の割合は、全国と比較して低い状況です。「普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」は、全国と比較して3時間以上と回答している割合は高いものの、30分以下と回答している割合も高い状況です。

家で、学校の宿題
をしていますか

児

小学校



生

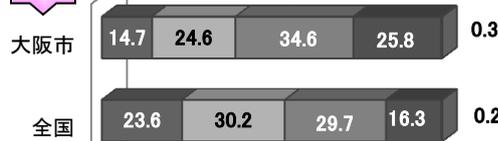
中学校



学校の授業の復習
をしていますか

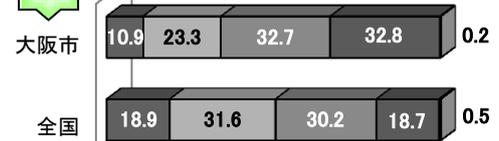
児

小学校



生

中学校



普段、1日当
たりどれくら
いの時間、勉
強を
しますか

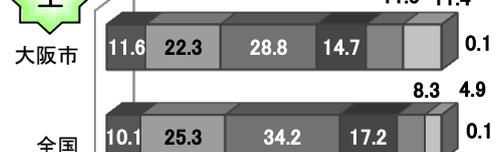
児

小学校



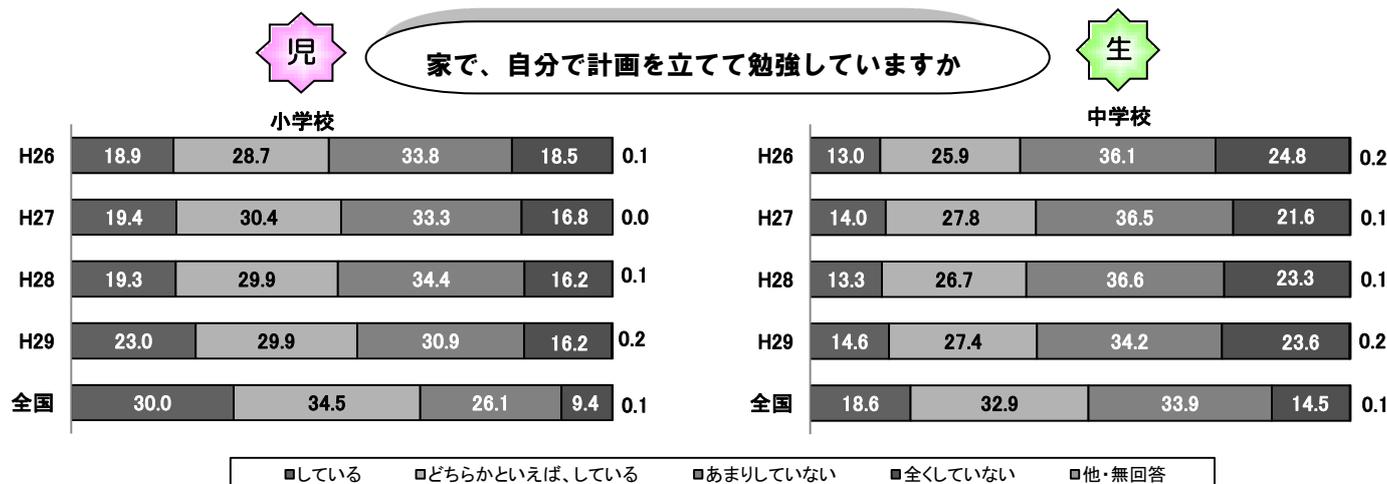
生

中学校



—経年の比較—

次の項目について、肯定的に回答している児童生徒の割合は、全国と比較して低い状況ですが、昨年と比較して小中学校ともに増加しています。



学校で

- 与えられた課題や宿題は、やり遂げるように指導します。
- 学校全体で共通理解を図りながら、宿題の分量や出し方を工夫します。
- 懇談会などを活用して、学習習慣を育むために、家庭との連携を図ります。



家庭で

- 宿題を確実に仕上げるように見守りましょう。
- 家庭学習の内容や時間については、自分で計画を立てて取り組めるように話し合いましょう。また、うまく進まない時には、声かけをし励ましましょう。
- 宿題以外に、復習や自分で考えた課題にも取り組めるように声かけをしましょう。

効果があった取組例

- 学校で作成した「家庭学習の手引き」を配付し、次のような取り組み方を示しています。漢字では、筆順・熟語・文づくり・意味調べなど、いろいろなパターンで取り組ませています。音読では、毎日のめあてを決め、目的をもって読ませています。
- 学校運営の年度目標に「家庭学習習慣の育成」を位置づけ、学校全体で取り組んでいます。
- 自分で課題を見つけて学習するような家庭学習の機会を増やしています。
- 区で作成している「学びのすすめ」を活用し、家庭学習に取り組ませています。
- 課題の量や内容について、学年で共通理解を図っています。
- 家庭学習の提出状況を把握し、個々に応じた指導を行っています。



大阪市の取組

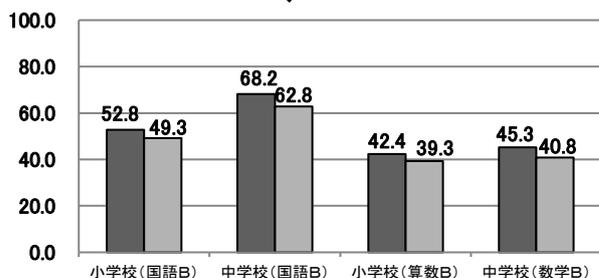
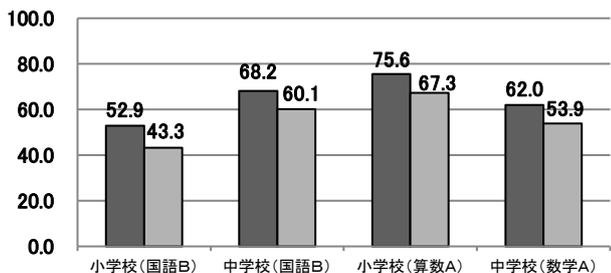
「学習教材データの配信」(P. 40)
 「学校元気アップ地域本部事業の実施」(P. 48)

—正答率との相関関係—

次の項目に肯定的に回答している児童生徒、学校の方が全ての教科で正答率が高い傾向にあります。

児 生 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

学 学習規律の維持を徹底していますか



■肯定的回答をした児童生徒の正答率 □否定的回答をした児童生徒の正答率

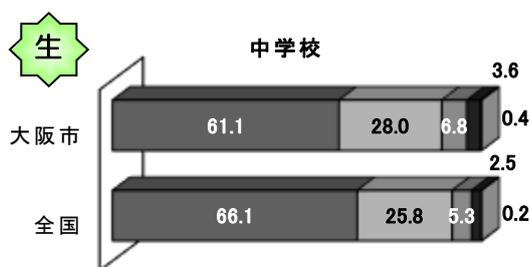
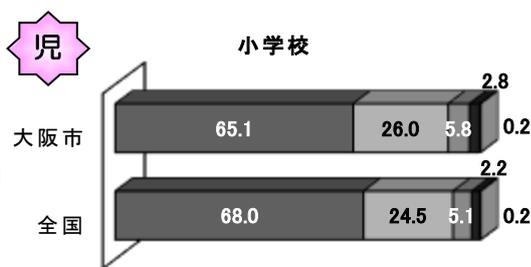
■肯定的回答をした学校の正答率 □否定的回答をした学校の正答率

—全国との比較—

「人の役に立つ人間になりたいと思う」について肯定的な回答をしている児童生徒の割合は、全国と比較して低い状況です。

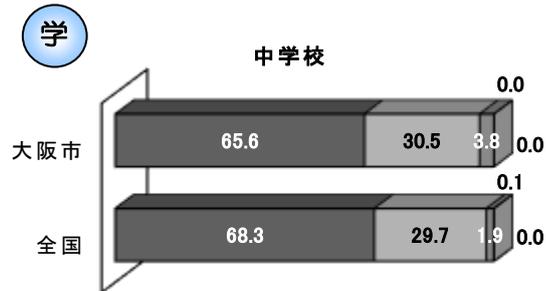
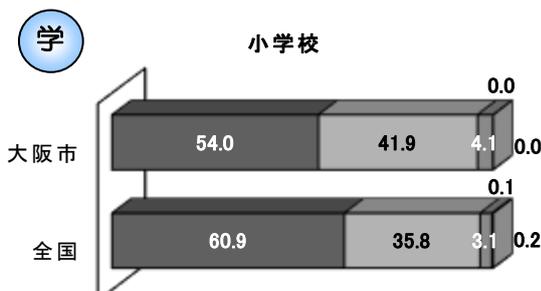
「学習規律の維持を徹底している」について肯定的な回答をしている学校の割合は、9割5分となっていますが、全国と比較してやや低い状況です

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない □他、無回答

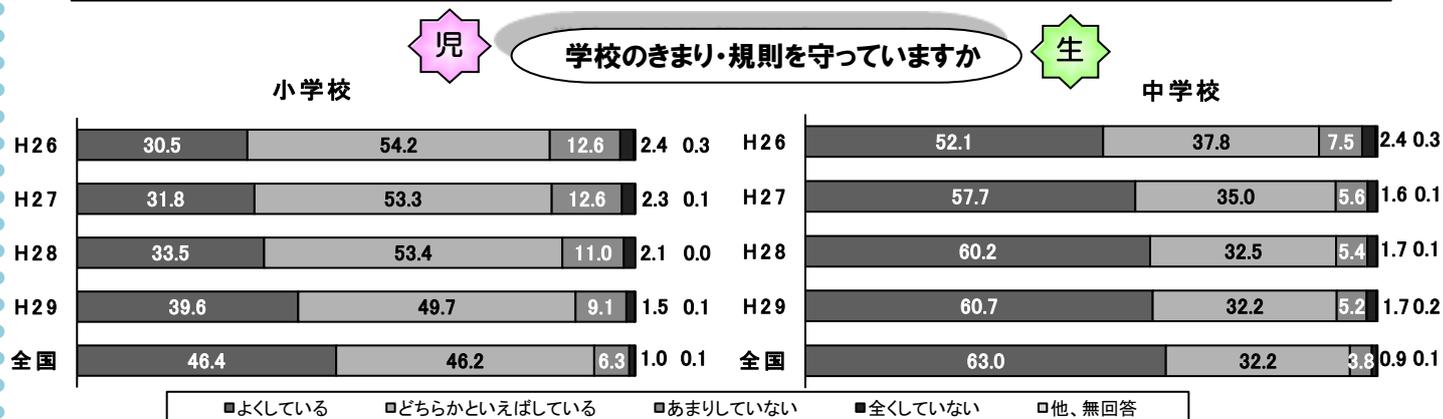
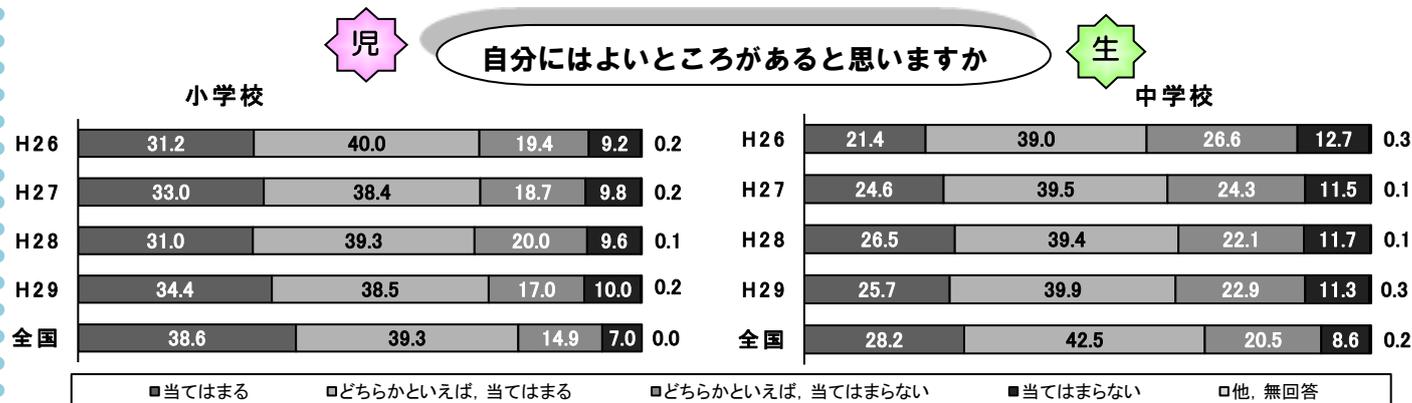
学習規律の維持を徹底していますか



■よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行っていない ■全く行っていない □他、無回答

一 経年の比較一

「自分にはよいところがあると思いますか」について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、26年度から少しずつ増加傾向にあります。全国を下回っています。「学校のきまりや規則を守っていますか」について「当てはまる」と回答をした児童生徒の割合は、26年度から小中学校ともに増加傾向にあります。



学校で

- ・ 全員が主体的に学習に参加し、活躍できる場面を設定します。
- ・ 一人一人のよさを認め、自己有用感を育て、自己肯定感を高めます。
- ・ 学習規律や基本的学習態度を身に付けさせることから、学びの基盤を整えます。
- ・ ルールを守ることなど、規範意識を高めることにより、学びやすい環境づくりを行います。

家庭で

- ・ 子どもの取組を粘り強く見守り、励ましましょう。
- ・ 子どもが自信をもって取り組んでいる時に、がんばりを認める温かい言葉をかけましょう。
- ・ 夕食や家事の手伝いを通して会話を楽しみ、よくできたことなどをほめましょう。
- ・ 大人が自分自身の経験を語ったり、子どもの夢や希望について積極的に対話したりしましょう。

効果があった取組例

- ・ 学級や学年全体で一つのものをつくりあげたり、スポーツ活動をすることで達成感を味わったりしながら、他者の気持ちを思いやれる心情の醸成を図っています。
- ・ 不適切な行動に対して、学年全体で丁寧に指導し、保護者との連絡も頻繁に行っています。また、よいところを認めて、自信を持たせる指導も行っています。
- ・ 全教職員がチャイムと同時に授業を開始できるよう協力し、子どもたちへの入室指導等、授業規律を徹底しています。

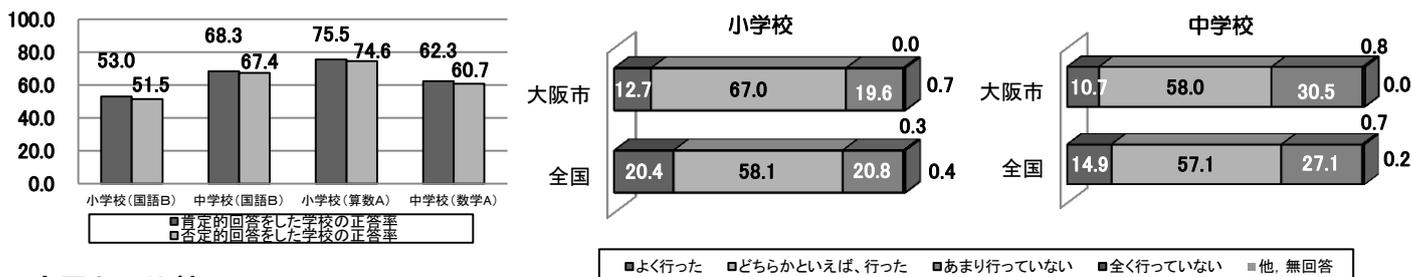
大阪市の取組

「生活指導支援員の配置」(P. 45)
「学校キャラバン隊の派遣」(P. 46)

—正答率との相関関係・全国との比較—

次の項目に肯定的に回答している学校の方が、全ての教科で正答率がやや高い傾向にあります。また、小学校では肯定的に回答している学校の割合は、全国と比較して高い状況です。

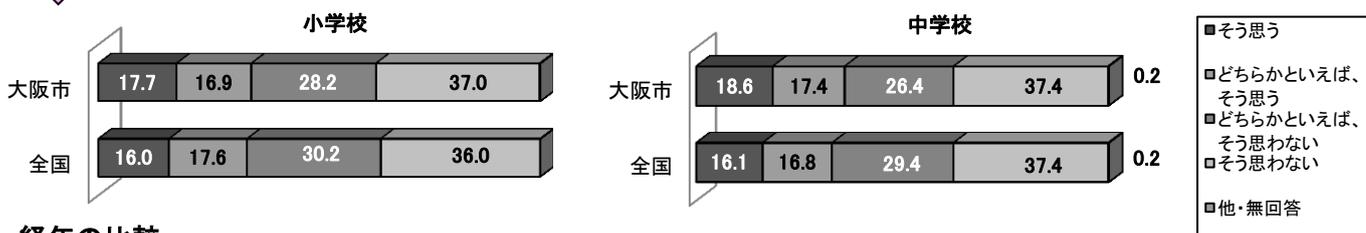
学 教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか



—全国との比較—

「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思う」について、肯定的に回答している児童生徒の割合は、全国と比較して高い状況です。

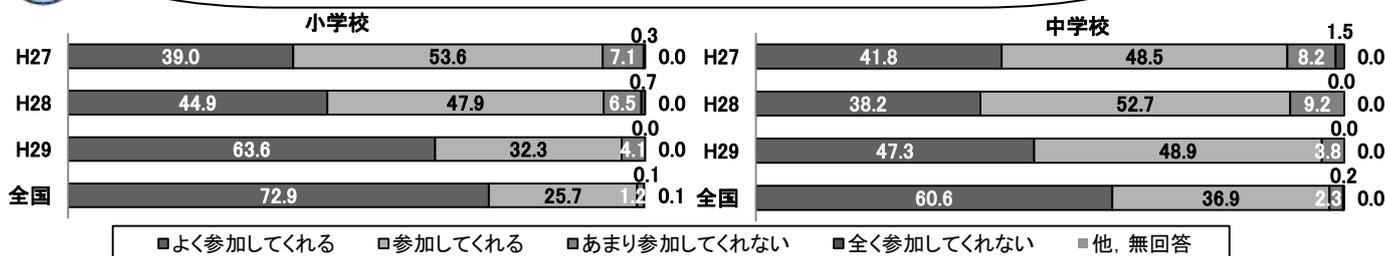
児 将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思いますか〈新規項目〉



—経年の比較—

「PTAや地域の方が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれている」について、肯定的に回答している学校の割合は、全国と比較して低い状況ですが、27年度から増加傾向にあります。

学 PTAや地域の方が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか



学校で

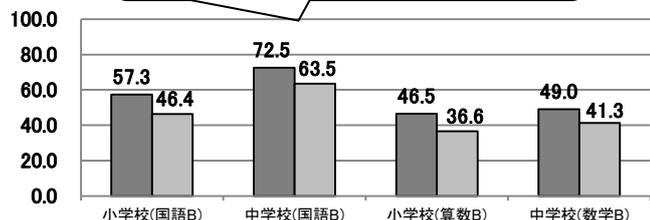
- 学校園の「運営に関する計画」の策定に、学校協議会を通じて学校関係者の意向を反映します。
- 中学校区において、「学校元気アップ地域本部」の活動により自主学習支援や学校図書館の活性化を図り、地域人材を招聘した授業の実施を進めます。
- 小学校低学年からの英語教育を実施し、自分の考えや意見を伝えることができる英語コミュニケーション能力を育成します。
- 小中一貫した教育の充実に向けて、小中合同の連携会議を開催し、出前授業や体験授業の充実等に取り組めます。



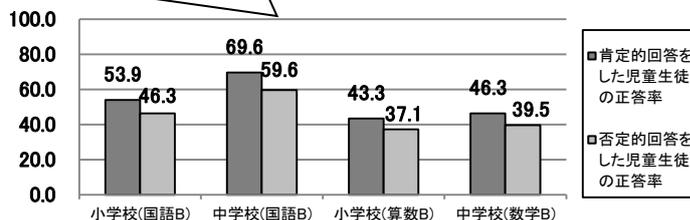
－正答率との相関関係－

児 生 次の項目に肯定的に回答している児童生徒の方が、全ての教科で正答率が高い傾向にあります。

地域や社会で起こっている出来事に関心がありますか



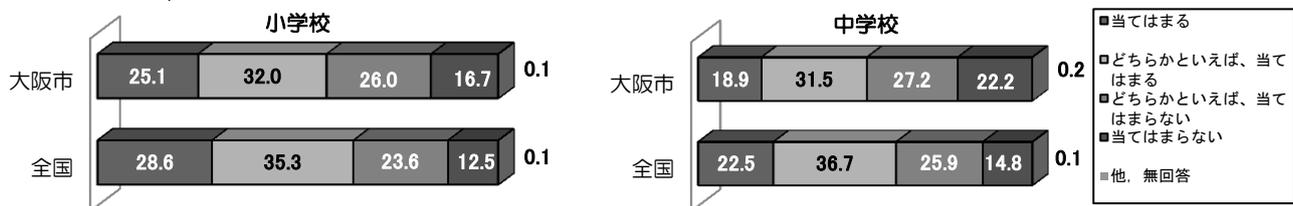
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか



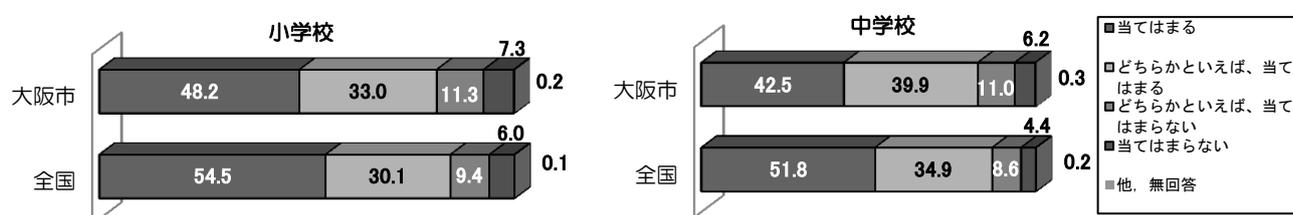
－全国と比較して－

「地域や社会に関心がある」「テレビ等のニュース番組を見る」について、肯定的に回答している児童生徒の割合は、全国と比較して低い状況です。

児 生 地域や社会で起こっている出来事に関心がありますか



児 生 テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか



家庭で

- ・ 子どもの話をよく聴きましょう。学校でのがんばりをほめましょう。
- ・ 地域の行事に積極的に参加することにより、地域の一員としての自覚をもたせましょう。
- ・ 新聞やテレビでニュース番組を見ることで、世界の動きや情勢などを知り、グローバルなものの見方をしていくことが大切です。

効果があった取組例

- ・ 中学校区で、月に1回小中校長連絡会議を行い、各々の学校での課題について把握し、連携を密に図っています。
- ・ 外国からの留学生を迎えて、交流しながら異文化理解の学習を進めています。
- ・ 年間を通じて、地域での体験活動や幼小交流、昔遊びの会などで地域の人たちと関わる活動を通して、地域の大人と子どもが交流できるようにしています。
- ・ 学校図書館補助員（地域ボランティア）の協力を得て図書室の積極的な開館に努めたり、ブックサロンを設置したりして、本に触れる機会を格段に増やす取組を進めています。

大阪市の取組

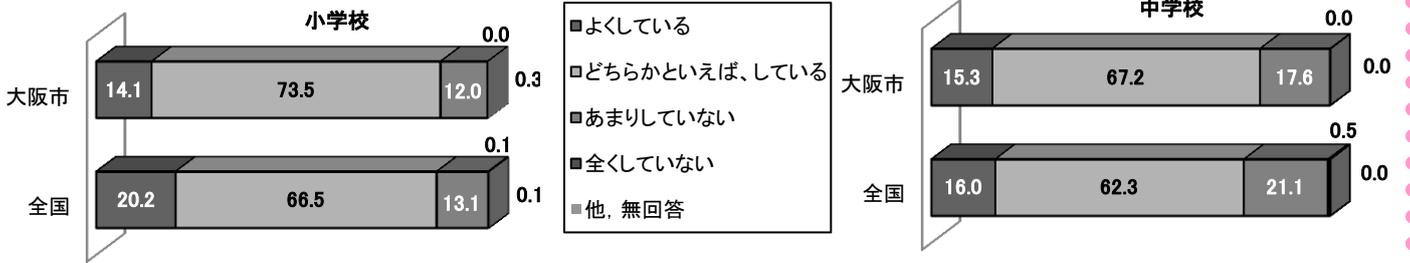
「学校図書館活性化事業の実施・学校図書館活用推進事業の実施」(P. 44)
 「幼稚園・保育所・小学校の連携」(P. 46) 「学校キャラバン隊の派遣」(P. 46)
 「小中一貫した教育の推進」(P. 47) 「学校元気アツク地域本部事業の実施」(P. 48)

一 全国との比較 一

学

指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点でその目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか

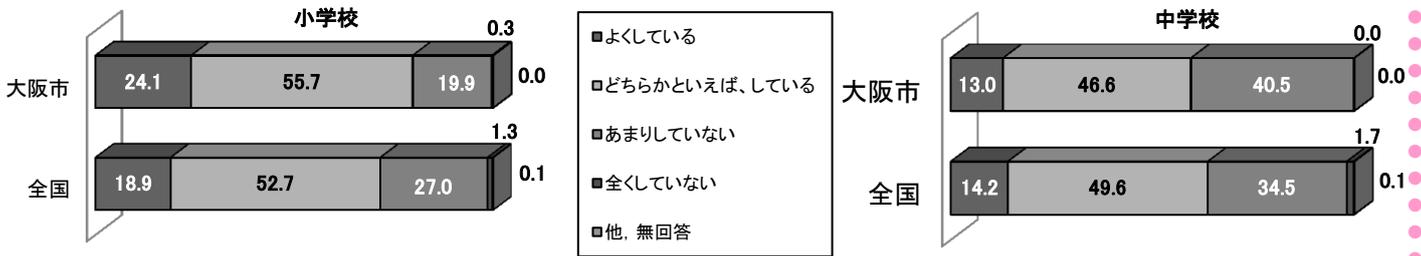
「指導計画の作成に当たって、学校の教育目標の達成に必要な内容を組織的に配列している」について、肯定的に回答した学校の割合は、全国と比較して小中学校ともに高い状況です。



学

コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子ども同士が教え合い学び合うなどの学習（協働学習）や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか

「情報通信技術を活用して、課題発見・解決型の学習指導を行っている」について、肯定的に回答した学校の割合は、小学校では約8割、中学校では約6割で、小学校では全国を上回っています。

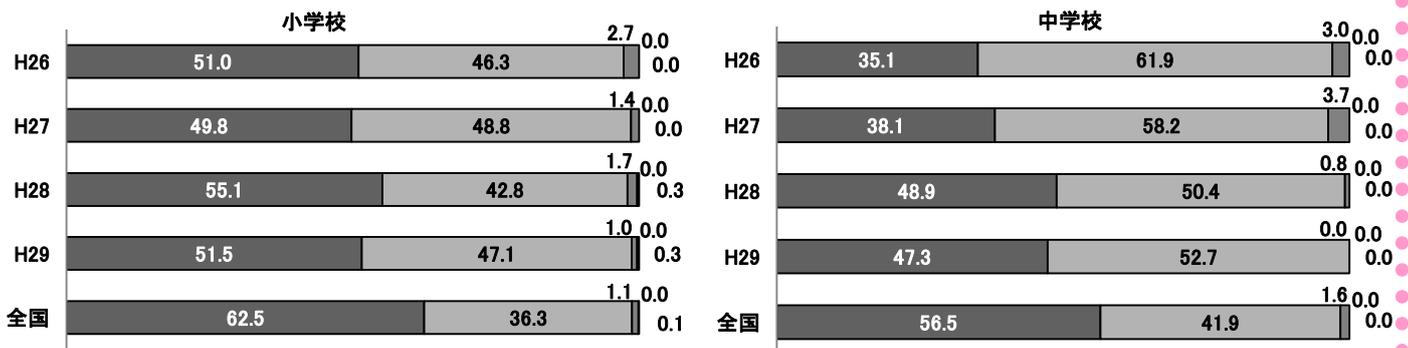


一 経年の比較 一

学

学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか

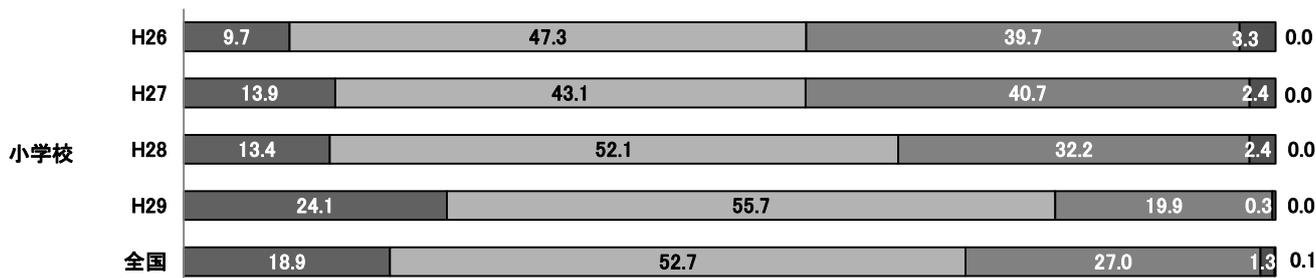
「学校全体の学力傾向や課題について、全教職員で共有している」について、「よくしている」と回答した学校の割合は、28年度と比べ、小中学校ともにやや減少しましたが、中学校では肯定的な回答をした学校の割合が100%で全国を上回っています。



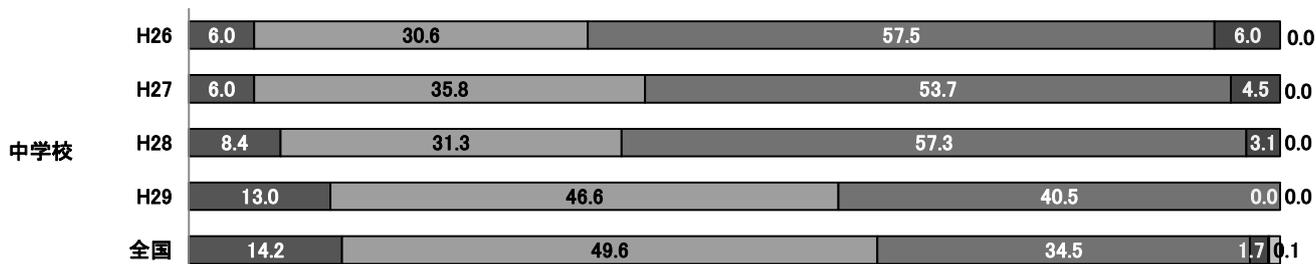
よくしている □ どちらかといえば、している □ あまりしていない ■ 全くしていない □ 他、無回答

学

コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子ども同士が教え合い学び合うなどの学習（協働学習）や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか



■よく行った □どちらかといえば行った ■あまりしていない ■全くしていない ■他、無回答



「コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子ども同士が教え合い学び合うなどの学習（協働学習）や課題発見・解決型の学習指導を行ったか」について、「よく行った」と回答した学校の割合は、小中学校ともに26年度から年々増加傾向にあります。また、昨年と比較して、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校で約14%、中学校で約20%増えています。

学校で

- 学校の教育目標の達成をめざし、教科横断的な教育課程を編成し、学力向上をはじめ、子どもの体力向上への支援や食育の取組、道徳教育の推進などに取り組みます。
- ICT機器を活用し、教員の指導の質と子どもの学びの質を向上する取組を進めます。
- 「全国学力・学習状況調査」などの結果分析を基に、学校全体の学力の傾向や課題を全職員で共有し、PDCAサイクルに基づいた学校改善を進め、学力向上に向けた具体的な取組を進めます。



効果があった取組例

- 主体的・協働的に学ぶことができる授業づくりを進めることを、「運営に関する計画」の年度目標に位置づけ、教職員で共通理解して学校全体で取組を進めています。
- ICT機器を活用した協働学習についての校内研修を設定し、効果的なICT機器の活用による学習指導の改善を図っています。
- 月1回の若手研修を設定し、授業力の向上や学習環境の整備など、基本的な指導力の向上を図る取組を進めています。
- 学力向上委員会で、子どもたちの学力傾向や課題について話し合い、子どもの実態に即した「家庭学習の手引き」を作成して活用しています。